道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第７学年１組　３階【数学Ａ】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
主幹教諭　紙谷　幸子

１　主題名　「思いやりをもって人と関わる」

２　内容項目　B(6) 思いやり、感謝

３　教材名・出典　「旗」（日本文教出版　あすを生きる①）

４　ねらい

少女を勇気づけるためにクラス旗を掲げたクラスメートの行動を通して、相手の立場や気持ちを理解、共感し思いやりの心をもって人と関わろうとする実践意欲と態度を育てる。

５　指導に当たって

（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について

・ねらいとする価値について

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２節　内容項目の指導の観点　思いやり、感謝　の内容項目の概要には、「思いやりの心は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それはまた、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。このように考えれば、思いやりの心は、単なるあわれみと混同されるべきものではないことがわかる。」と記されている。自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしっかりと自覚させ、自分が相手に対して何ができるかを考えさせ、他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励まそうという実践意欲と態度を育てたい。

・生徒の実態について

本学級の生徒は、自分自身の考えを積極的に発表しようとすることができる生徒が多い。また自分とは異なる様々な事情のある他者に対して否定したり排除したりするのではなく、配慮しながら関わろうとしている生徒が多い。一方で自分と関わりが薄いと思われる相手に対して、表面的に接するだけで深く関わり信頼関係を築こうとしない生徒も見られる。利己的、自己中心的な行動をとろうとする気持ちを克服し、よりよい人間関係を構築しようとすることの大切さを考えさせたい。

・教材について

本教材は、転校してきてまもなく交通事故に遭い、入院と自宅療養を余儀なくされた少女が主人公である。勉強の遅れや親しい友達をつくることができていない不安を抱えた少女は、窓の外にたなびくレモン色の旗を見ることで寂しさを紛らわしていた。少女はクラス旗にする小さな布をもらいに来た友達に旗を見る楽しさなどを話すが、その後友達はたずねて来ず、より一層不安をつのらせていく。しかし登校日前日に自宅の窓を開けたとき、クラス旗がはためいているのを目にする。翌日に登校した少女はクラス全員の拍手に迎えられ、レモン色の旗を掲げていた商店のむすこのたっての願いで、父親がクラス旗を掲げるのをゆるしてくれたことを知るという内容である。少女の不安や孤独感をおさえた上で、そう簡単には実現できなかったであろうクラス旗設置の実現にむけて、クラスメートがどのような思いで努力をしたのか、またそれを知った少女がどのような気持ちになったのかを役割演技の活動を通して実感をもって考えられるようにする。

・指導の工夫について

友だちがたずねて来なかった１週間の間に起きていたことを考えさせ、クラス旗を掲げるためにクラスメートがどのような思いで父親を説得したのかを役割演技の活動を通して考えさせる。この活動により、なぜまだ転校してきたばかりで関わりが少ない少女のためにクラスメートが一生懸命になれたのかを深く考えさせたい。話し合いを活発にするためにワークシートの配布・記入は「本時のまとめ」のみとし、それまでは板書を見て発言させるようにする。また、役割演技に十分な時間を確保するため、教材の範読は事前に行う。

6　本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入5分	1本時の学習への意欲・関心、問題意識をもつ。 ○よりよい人間関係をつくるために大切なことは何だろう。	・助け合うこと ・お互いの考えを想像し、尊重すること	・合唱コンクールに向けての取り組みを例に挙げて考えさせる。 ・導入は短時間で終えられるようにする。
展開35分	2登場人物の関係性をまとめた後、発問について考え、話し合う。 ○少女が旗ばかりながめていることを知ったとき、友だちはどのような気持ちだったのだろう。	・そんなにもさみしい思いをしていたのか。 ・お見舞いに来なくてごめんね。 ・何とかして元気づけてあげたい。	
	○友だちがたずねてこなかった1週間の間に、クラスメートたちは何をしていたのだろう。	・クラス旗をつくっていた。 ・クラス旗を商店に掲げることについて、クラスで話し合いをしたり先生に相談したりしていた。 ・クラス旗を掲げるために、父親を説得していた。	・友だちが少女のもとを1週間訪れなかった間の出来事を考えさせ、クラス旗を作成して商店に掲げるためには、大変な準備や交渉が必要であることを確認する。
	3友だちや商店の息子が父親にクラス旗を掲げるお願いをしている場面を役割演技する。		
	○商店の息子はクラス旗を掲げるために、どのように父親を説得したのだろう。	・少女がさみしい思いをしていることがわかったから、支えてあげたい。 ・少女が不安なく登校できるようにしてあげたい。 ・クラスの一員であることを伝えたい。	・小グループで話し合いを行い、その後数名を指名して学級全体で役割演技を行う。 ・友だちの思いやりのある行動や他のクラスメートにも広がっていることを確認する。
	補　なぜ、クラスの旗を掲げることにしたのだろうか	・少女が心のよりどころにしていたレモン色の旗に変えてクラス旗を掲げることで、友だちや他のクラスメートが少女を待っていることを伝えたい。	
	◎少女が「この町に引っこしてきて良かったと心から思った」とはどういうことだろう。	・自分のために行動してくれるクラスメートがいることに気づいた。 ・自分のことを考えて励ましてくれる思いやりが嬉しかった。 ・クラスの中の行動だけでなく、クラスメートの父親などさまざまな人の思いやりに気づき、感謝している。	・話し合いを活発にするため、ワークシートは配布せずに板書を見ながら発言させる。 ・友だちから少女への思いやりが他のクラスメートや父親にまで広がっていることを確認する。
終末10分	4教師の説話を聞き、本時のまとめをする。 ○この時間を振り返って気づいたことや感じたことを書きましょう。	・自分もつらい立場にある人に対して、思いやりを行動にうつせるようにしたい。	・ワークシートを配布し、記入させる。 ・記述内容は数人に発表させて共有する。

7　評　価

〇相手の立場や気持ちを理解、共感し思いやりの心をもって人と関わろうとすることの大切さについて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ、考えを広げようとしていたか。

〇思いやりの心をもって人と関わろうとすることの大切さについて、自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8　板書計画

【旗】

〇少女の置かれている状況
・転校してきたばかり
・交通事故で１ヶ月学校を休んでいる
・勉強の遅れが心配
・まだ親しい友達がいない

場面絵

〇旗ばかりを眺めていると
知った友だち
・そんなにさみしい思いをしていたのか
・お見舞いに来なくてごめんね
・元気づけてあげたい

場面絵

〇父親（店主）へのお願い
・さみしい思いをしているから支えてあげたい
・クラスの一員であることを伝えたい
・不安なく登校できるようにしてあげたい

〇「この町に引っ越してきてよかった」
・自分のために行動してくれるクラスメートがいる
・自分の立場を考えて励ましてくれる思いやりが嬉しかった
・町の人への感謝の気持ち

道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第７学年３組　２階【数学B】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
主任教諭　内山　祥

１　主題名　　「お互いの立場の理解」
２　内容項目　B(9) 相互理解、寛容
３　教材名・出典　　「言葉の向こうに」(日本文教出版　あすを生きる①)
４　ねらい　　インターネット上でファンとやりとりする場面を通して、分かり合おうとする難しさについて考え、道徳的な判断力を育てる。
５　指導に当たって
（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について
・ねらいとする価値について
　中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２節 内容項目の指導の観点 B(9) 相互理解、寛容の内容項目の概要には、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に学び、自らを高めていくこと。」と記されている。人間相互の理解は、自分の考えや意見を発信することが一つの鍵になる。様々な物事について、自分の考えや意見を人に伝えることは、人間関係を築き、相互理解を深めるために欠かすことができない。人には、それぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性がある。互いに相手を認め、相手の考えや立場を理解し尊重する態度を育てたい。
　また、人を許すことで、他者のよい面を積極的に認めようとすることができるものである。他者に学ぶ　ことが大切であることに気付くことで、他者の助言や忠告に謙虚に耳を傾けることができる。他者から謙虚に学んでいくことは、よりよい人間としての成長を促すために大切なことである。互いのもつ異なる個性を見付け、違うものを認められる寛容の態度を育てたい。
・生徒の実態について
　中学校に進学すると、多くの生徒が新たな環境で多様な考えに触れることになる。本学級の生徒は、授業や学級活動において、他者の視点を理解しようと努める一方で、自分の意見への固執が見られることもある。逆に、意見の対立を避けるために過剰に迎合する場合もあり、それがトラブルにつながることもある。そのため、お互いの個性を尊重し、広い視野で考えを受け入れながら、自分の考えや意見を適切に表現しようとする態度を育みたいと考える。
・教材について
　主人公「私」は、インターネット上で、とあるサッカーチームの A 選手のファン仲間との交流を楽しんでいる。ある試合をきっかけに、心ない書き込みが続いたことに怒った「私」は、自分もひどい言葉で応酬し、注意されてしまう。やり取りを見た人の「言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」という言葉から、「私」が気づいたことについて考えさせる教材である。
・指導の工夫について
　よりよく生きようとする願いに応えるために、生徒と教師が共に考え、共に探求していく授業を展開していく。人間としての生き方について考えを深めるために、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかということを考えさせる。また、教師が生徒に対して特定の価値観を教え込まないために、レールを敷かないように気をつける。そのために、導入を簡潔にし、生徒の声を大切にすることに重点をおく。
　本時の授業は、話し合いが生徒相互の考えを深める中心的な学習活動である。一つだけの立場にとらわれずに、様々な立場の考えで話し合えるように発音を工夫していく。板書についても、生徒がワークシートに書く活動を減らし、話す活動を重視できるようにスライドを使いテンポ良く進められるようにする。教師の板書によって、生徒の考えをつなぎ、話し合いを活性化させる。ワークシートに書いたことを一人ずつ発表していく活動は止め、お互いの考えを語り合う活動を重視する。

6　本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	１教材を自分事として捉える。 ○休み前の生活の話で大切な話がいくつかあったが、スマホや SNS についての話は覚えているか。	・覚えている ・SNS のトラブルについて ・パソコンの使い方について ・使い方について ・時間について	◇生徒の机上は、教科書のみにし、他のものはしまう。
展開	２教材の範読を聞き、発問について話し合う。 ○必死で反論する私の言葉がだんだんエスカレートするのはなぜか。 ○中傷する人たちと同じレベルで争わないで。という書き込みを見て、「私」はどう思ったか。 ○ 「私」は、「一番大事なことを忘れていた。」と言っているが、どんなことを忘れていたのか。 補足イスにもたれかかって考えたことってなに？すごいことってなに？ ○お互いの立場を理解し、尊重するとは、どういうことか。 補足人付き合いで大切なことってなんだろう？ 問い返し ◎誹謗中傷が良くないとわかっているはずなのにどうしてなくならないの? 補足深掘り みんな、自分はやらないって言ってるけれど、でも実際あるよね？どうして？なんで？	 ・悪口に負けない ・いい加減にして ・私は悪くない ・同じ仲間じゃないの ・いわれる筋合いはない ・読む人の気持ちを無視 ・自分の考えの押しつけ ・選手を応援することより悪口を言っている人に夢中になっていた ・文字だけでは気持ちがわからない ・冷静さがなかった ・相手の気持ちを認める ・相手の考えを認める ・相手の立場になって考える ・自分の主張だけではダメ ・客観的に考える ・自分は絶対やらないけど、、、 →　・ストレス発散 ・面白い　・楽しい ・ふざけている →　・抱えきれない何かがある ・仕事で嫌なことがあった ・人間関係で悩んでいる	◇電子黒板に発問のスライドを写しながら進めていく。 ◇関連する絵を黒板に貼り、発問と併せて生徒の意見を板書でまとめていく。 ◇クラスメイトとの言を通して、考えを深められるようにする。 ◇３～４人グループで話し合い活動 ◇共に考え語り合う。生徒同士の話し合いの中で、自分の日頃の生活に落とし込めると良い。
終末	３振り返り、本時のまとめをする。 ワークシート配布		◇書く時間を確保し、感じたこと考えたことをまとめる。

7　評　価

〇お互いの立場の理解について、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ考えを広げようとしていたか。

〇分かり合おうとする難しさについて、自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画

言葉の向こうに　～相互理解～

「私」はファンサイトにアクセス

発問①　必死に反論



・悪口に負けない
・いい加減にして
・匿名
・

発問②　同じレベルで争わないで

・私は悪くない
・同じ仲間じゃないの
・言われる筋合いない

発　反

発問③　一番大事なこと



・冷静さがない
・画面の向こうに
　相手がいること
・読む人の気持ちを無視
・自分の考えの押しつけ
・選手を応援することより悪口を
　言っている人に夢中になっていた
・文字だけでは気持ちがわからない

発問④　立場を理解し尊重するとは

・相手の気持ちを認める
・相手の考えを認める
・相手の立場になって考える
・自分の主張だけではダメ
・客観的に考える

発問⑤わかっているはずなのにどうしてなくならない（問い返し）

道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第７学年５組　３階【共通Ｂ】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
主任教諭　高橋　淳一

１　主題名　「よりよい社会の実現」
２　内容項目　C(10)遵法精神・公徳心
３　教材名・出典　「バスと赤ちゃん」（日本文教出版　あすを生きる①）
４　ねらい
　バスの中で拍手が起きた場面について考える活動を通して、一人ひとりが社会を構成する構成員であることを自覚して、誰もが安心して生活できるよりよい社会を実現しようとする道徳的心情を育てる。

５　指導に当たって
（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について
・ねらいとする価値
　公徳心とは,社会生活の中で守るべき正しい道を大切にする心である。公徳心が発揮されることで、社会が安定し、誰もが安心して生活できるよりよい社会が実現できる。ただ、中学生段階になると、公の場で自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。ややもすると自分の権利ばかりを主張し、自分の果たさなければならない義務をおろそかにしてしまう傾向もみられる。社会は人が集まってできた集団のことである。よりよい社会を実現させるためには、自分も社会の構成員の一人であることを自覚し、公共の場で秩序を保ち、他者と協働し、社会全体の利益を考える徳、すなわち公徳心が必要となってくる。誰もが安心して生活できるよりよい社会の実現を目指すため公徳心を生徒一人一人に身に付けさせたい。

・生徒の実態について
　学級・学年の活動や学校行事等を通じて、学校生活の中で一人一人が協力し合い、学級・学年の構成員の一人であるという意識をもち、安心安全な環境を作ることを目標に日々生活をしている。一方でどんな場所も公共の場であるということを意識せずに、他に対する配慮を欠く言動をとってしまう生徒もいる。また、ルールや決まりなど既存のものに対する反発が出てくる年代でもある。このような時期の生徒には、他の生徒も自分も、それぞれが社会を構成する大切な一員であるという自覚をもたせ、他の生徒との協働や互いを尊重して「集団をよりよくしていこう」とする心情が公共の場での秩序を保てるということを実感させたい。

・教材について
　「バスと赤ちゃん」は、バスの中の乗客としての公徳を考えながら，大泣きをする赤ちゃんを抱く若い母親をどう受け入れていくかを通して，よりよい(バスの中の)社会の実現をどう目指していくかを考えることができる。中学生に公徳心について考えさせるために効果的な資料となっている。

・指導の工夫について
　指導に当たっては、書く活動よりも話し合い活動を通じて考えを深めることを重視している。
　まず、バスの中で赤ちゃんが泣いたとき登場人物がどのように思ったかを考えさせる。その際、周囲の生徒と話し合う活動を通じて、お母さん、運転手、乗客の気持ちについて多様な意見があることに気づかせる。その中でも特に集団の中でトラブルがあるとネガティブな感情が芽生える可能性に注目させたい。
　また、バスの中で起きた拍手の前後について考えを深めることができるよう発問を工夫する。多様な感じ方・考え方がある中で沸き起こった拍手は、運転手や母親の「思いやり」や行動と、その行動に拍手を送った乗客、その場にいた人々への称賛・賛同の拍手である。その拍手によってバスの中の雰囲気が大きく変容したことに気づき、母親にとっても乗客全員にとっても、安心して乗車できる空間に変化した要因に迫ることできるように工夫する。

6　本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入5分	1日常生活の中での経験を振り返る。 ○混雑した乗り物に乗ったことは？その時の気持ちは？	・きつかった。 ・押されて嫌だった。 ・仕方ないと思った。	◇日常生活の中で混雑した状況を確認することでイメージしやすいようにする。
展開35分	2資料を読み、運転手、母親、乗客の気持ちを考える。 ○混雑するバスの中で赤ちゃんが大きな声で泣き始めた。その時の運転手、お母さん、乗客のそれぞれの気持ちを考えてみよう。	【運転手】 ・大変そう。どうしたのだろう。 ・何とかしなきゃ。 【若いお母さん】 ・早く泣き止んでほしい。 ・他の人の迷惑にかけたくない。 【乗客】 ・うるさいな。 ・迷惑だな。 ・たいへんそうだな。	◇範読し、あらすじを確認。その際、「火が付いたように泣く赤ちゃん」について確認させる。 ◇ペアの生徒と話し合う ◇様々な登場人物の気持ちを考え、多面的多角的に場面をとらえさせる。乗客の気持ちを考える中で、集団の中でトラブルがあると、ネガティブな気持ちが芽生える可能性に注目させる。
	○運転手のアナウンスの後、なぜ私はどうしていいか分からなかったのだろう。※みんなもたぶんそうだったと言っているが、どんな気持ちなのだろう？	・(賛同したいけれど) 答え方がわからなかったのではないか。 ・母親は降りても問題ないのではないか。 ・降りたほうがいいと思っていたから。	◇母親や乗客の気持ちを交えながら、アナウンス前後の流れを確認する。 ◇乗客の中の多様な気持ちを確認する。
	補助発問1 ○拍手は誰に対する「返事」なのだろうか？	・運転手への賛同を示す拍手。	◇数秒後に一人が拍手し、つられた乗客全員の拍手したことを確認する。
	補助発問2 ○拍手を受けてお母さんは何を思っただろう？	・うれしい。 ・助かった。 ・安心した。	◇最初の拍手は運転手への、続いて拍手をした乗客は、最初に拍手をした人物への賛同であることを確認する。
	補助発問3 ○拍手で何が変わった？	・お母さんの苦しい気持ち ・車内全員の雰囲気	◇拍手によって赤ちゃんが泣き止んでいるわけでも、お母さんが楽になったわけでもなく、変わったのはバスの中の雰囲気（空気）であることに気づかせる。
	◎中心発問 今でも私が思い出すと目頭が熱くなりじーんとなるのはなぜだろう？	・迷惑だと考えていた人も、運転手の言葉に納得して一人のためにうごいたこと。 ・運転手さんの心遣い ・バスの中の心地いい雰囲気 ・お互いを思いやるあたたかい空気を作ることができた。	◇ペアでの話し合いを行って意見を深める。 ◇道徳ノートへ記入する。 ・出てきた意見を板書して学級全体で共有する。

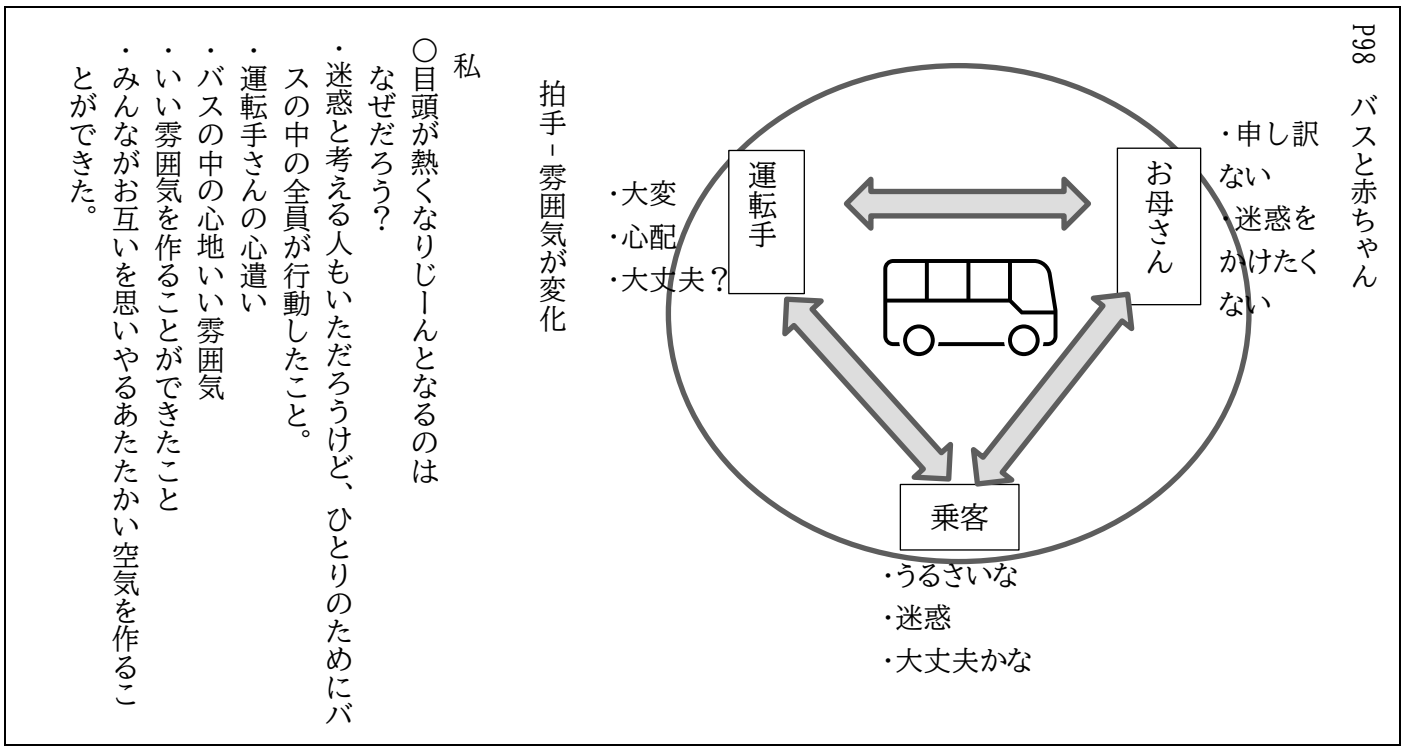
終末10分	３振り返り ・授業の中で感じたこと、思ったことを、感想の欄に書く	・社会を誰もが安心していられるようにするには、それぞれ個々に思いやる気持ちが大切だと気付いた。など	・道徳ノートへ記入。 ・時間に余裕があれば感想も発表して共有したい。

7　評　価

○よりよい社会の実現に向けて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ、考えを広げようとしていたか。

○よりよい社会の実現に向けて、自分自身とのかかわりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画



道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第７学年６組　２階【国語Ａ】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
主任教諭　伊藤　健

１　主題名　「共に生きる」
２　内容項目　D(19)生命の尊さ
３　教材名・出典　「ばあば」（日本文教出版　あすを生きる①）
４　ねらい　　生命の連続性や有限性を理解し、互いに支え合い共に生かされているという感謝を通して、かけがえのない生命を尊重する道徳的心情を育てる。
５　指導に当たって
（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について
・ねらいとする価値について
　中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編 第３章 道徳科の内容 第２節 内容項目の指導の観点 19 生命の尊さ の内容項目の概要には、「『生命の有限性』とは、生命には限りがあることを正しく理解し、その限られた時間をいかに人間として気高く生きるかという問いに向き合うことを意味する。『生命の連続性』とは、生命が世代を超えて受け継がれ、多くの生命とのつながりの中で自らも生かされていることに感謝することを意味する。そのためには、生命の尊さを観念的に理解するだけでなく、身近な他者の生きる姿勢や内面の気高さの中に優れたものを見いだし、それを生み出した精神に学び、互いに支え合って生きていくことが必要である。」と記されている。生命を大切にするということは、外的な若さや健やかさだけを求めるのではなく、老いや衰えという現実を受け入れつつも、その奥にある気高く懸命に生きようとする精神や、無形のものをもらい合っている生命のつながりに感謝することが大切である。また、生徒自身が単に周囲から支援をもらうだけの存在ではないことに気付き、自らも、他者と相互に生命を支え合う主体であるという自覚をもち、かけがえのない生命を大切に共に生きていこうという思いをもってほしいと願い、本主題を設定した。
・生徒の実態について
　本学級の生徒は、男女問わず意欲的に意見交換を行い、教師の全体への問いかけに対しても素直に反応し、積極的に取り組むことができる。一方で、中学１年生という発達段階においては、生命の尊さを安全や健康といった身体的・概念的な側面で捉えがちであり、日常の中で命の連続性や他者との関係性といった「共生」の側面まで深く思いを巡らせる機会は少ない。
　そこで本授業では、活発な対話を活かしながら、ばあばの生きる姿勢や葛藤に向き合わせる。自分自身の生命が多くの他者の支えの中で生かされていることに気付かせ、主題である「共に生きる」意味について多面的・多角的に考えを深めさせたい。
・教材について
　本教材は、老増や身体の衰えに向き合いながらも、与えられた命を懸命に生きようとする「ばあば」の姿を描いた読み物資料である。作中では、生死に葛藤する弱音を吐露しつつも、直向きに命を全うしようとするばあばの気高い生きる姿勢や、主人公家族との温かな関わりが描かれている。本教材の最大の価値は、生命を単に「生物的・身体的生命」の有限性や維持として捉えさせるだけでなく、目に見えない思いや生きる姿勢を相互にもらい合っている「社会的・文化的生命」の側面に目を向けさせられる点にある。ばあばの言動や「『僕』たちがばあばから何をもらっていたのか」を考えることを通して、人間は単に支援を受けるだけの存在ではなく、周囲と相互に支え合い共に生かされていることに気付かせ、主題である「共に生きる」意味や生命の尊さを多面的・多角的に深めさせるうえで有効な教材である。
・指導の工夫について
　導入では身近な高齢の家族の姿を想起させ、主人公の置かれた状況を自分事として捉えさせる。展開では「はよう行きたい」という葛藤や懸命に生きる姿勢に対し、教師の丁寧な発問とクラスメイトとの対話を通して、生徒自らにその深い内面を推測させる。単なる生物的・身体的生命にとどまらず、互いに無形のものをもらい合い「共に生かされている」という社会的・文化的生命の尊さに目を向けさせ、命の価値を多面的・多角的に深めさせる。

6　本時の展開

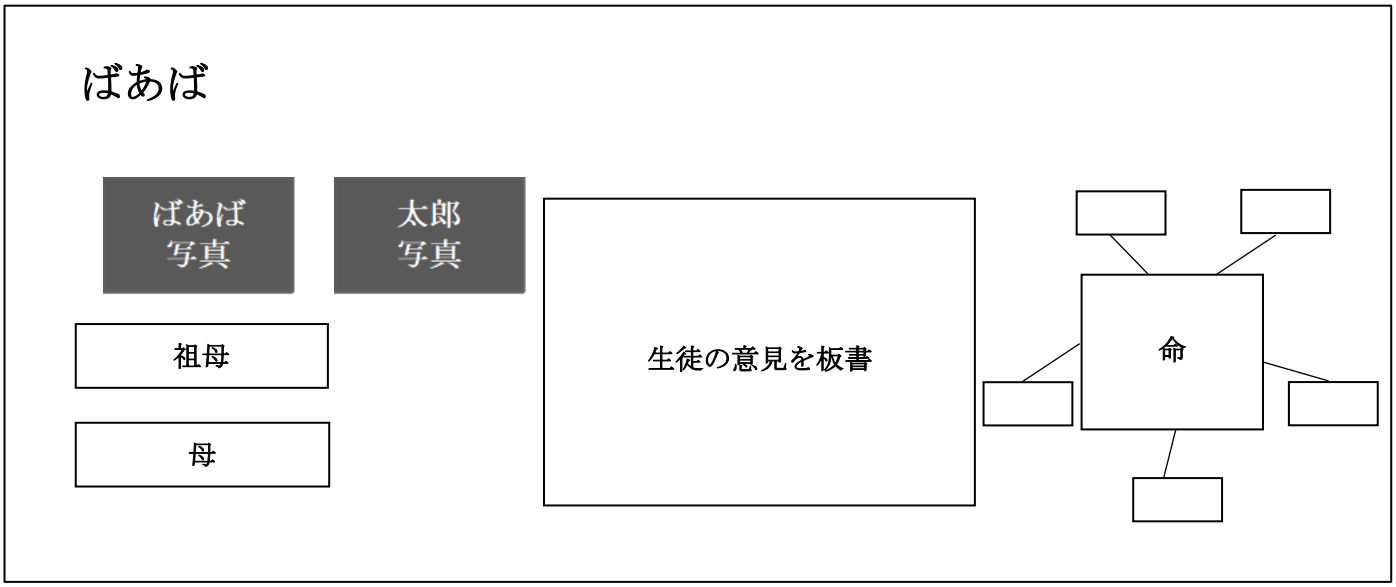
	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	１教材を自分事として捉える。 〇曾おばあちゃんと会ったことある人はいるか。	・ある。 ・ない。 ・同居している。 ・遠くに暮らしているので、あんまり会えない。	◇生徒自身の曾祖父母の姿を思い浮かべさせ、主人公の状況への理解を深められるようにする。
展開	２教材の範読を聞き、発問について、話し合う。 〇ばあばが、「死んだ息子とじいちゃんのところへ、はよう行きたい」と言ったのは、なぜだろう。 補発 〇生きることに葛藤しつつも「けれどこればかりは、お迎えが来てくれないと、どうしようもないわな。」と言ったのは、なぜだろう。 問い返し 〇ばあばが涙ぐんだのは、なぜだろう。 ◎「僕」たちは、ばあばから、何をもらっていたのだろう。 ・母の目線から考える。 ・僕（太郎）の目線から考える。 〇私たちは命とどう向き合うべきだろうか。	・高齢のため、生きることが辛いと思っているから。 ・死んだ息子とじいちゃんが恋しいと思っているから。 ・生きることが辛いと思っているから。 ・生きることに葛藤しつつも、与えられた命を全うしようとしている。 ・死んだ息子のため、じいちゃんのため、家族のために生きようと思った。 ・生きている喜びを感じたから。 ・限られた命を力強く生きることの大切さ。 ・弱音を吐露しつつも、健康に留意しながら懸命に生きようとしていること。 ・与えられた命を全うして、懸命に生きようとすること。 ・人のために懸命に生きようとすること。 ・受け継がれている命を全うすること。 ・先代から受け継がれた命を大切にすること。 ・与えられた命と周りにいる人間を大切にしながら、共存していく姿勢。 ・自分の生き方に責任をもつ。 ・自分自身と周りの人の命を大切にする。 ・精一杯力強く生きる。 ・与えられた命を大切にする。	◇本教材にあるばあばの健康状態を理解させる。 ◇生きることに対する「ばあば」の葛藤や心情を、生徒が正しく理解できるようにする。 ◇生死に葛藤しながらも、限られた命を懸命に生きようとする「ばあば」の心情を捉えさせる。 ◇ばあばの発言に注目させる。また、生命の連続性や有限性を理解させる。 ◇クラスメイトとの対話を通して、ばあばの生き方について思考を広げ、考えを深められるようにする。 ◇ばあばの誰かのために生きようとする姿勢から、受け継がれた命や支えられた命の大切さついてを深く考えさせる。 ◇ばあばの生き方を通して、生物的・身体的生命にとどまらず社会的・文化的生命にも目を向けさせ、人間は周りと共存し生かされていることに気付かせる。
終末	３自分自身について振り返り、本時のまとめをする。		◇書く時間を確保し、数名の生徒を指名して共有する。

7　評　価

〇生命の尊さについて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ、考えを広げようとしていたか。

〇生命の尊さについて、自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画



道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第８学年２組　２階【社会Ｂ】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
教諭　川端　卓哲
主幹教諭　大野　豪

１　主題名　「誠実な生き方」
２　内容項目　A(1)自主、自律、自由と責任
３　教材名・出典　「ネット将棋」（日本文教出版　あすを生きる②）
４　ねらい　　健人、美咲、唯が話している場面を通して、自分自身と向き合い、負けを素直に認め、自分の良心に従って誠実に行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
５　指導に当たって
（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について
・ねらいとする価値について
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　　第２節内容項目の指導の観点　１自主、自律、自由と責任の内容項目の概要には、「『自律の精神を重んじ』るとは、他からの制御や命令を待つことなく、自分の内に自ら規律を作り、それに従って行動しようとする気持ちを大切にすることである。『自主的に考え、判断』するとは、他人の保護や干渉にとらわれずに、善悪に関わる物事などについて幾つかの選択肢の中から自分で最終的に決めることである」。また、「『誠実に実行』するとは、すがすがしい明るい心で、私利私欲を交えずに真心を込めて具体的な行為として行うこと」と記されている。
「自ら考え、判断し、実行」するためには、「深く考えずに多数派に付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律すること」が大切である。自分自身と向き合い、自分の発言や行為、行動に対して責任を持てるようになってほしいと思い、本主題を設定した。
・生徒の実態について
本学級の生徒は温和な生徒も多く、意見も意欲的に交換しており、教師の問いかけに対しても素直に反応してくれる。また、自分の考えに従って行動しようとする姿は見受けることができる。しかし、自分自身の行為が自分や他者にどのような結果をもたらすかということを深く考えないまま、無責任な言動をとってしまうことがある。これらのことから、本授業を通して、自己の気高さに気付かせ、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとろうとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。
・教材について
本教材は、負けを認められず、インターネット上の顔の見えない相手に不誠実な行動をしてしまう主人公「僕」が、友人の言葉を聞いて、誠実な生き方とはどういうことかを考え始める教材である。
友達との会話の中で心から「負けました。」と言えない自分に気づき葛藤する「僕」の気持ちを考えることで、誠実な生き方とはどういうものかに気付くことのできる教材となっている。
・指導の工夫について
（ア）話し合いの工夫
書く活動を振り返りの場面のみに限定することで、生徒が板書を見ながら話し合うことができる時間を多く確保していく。また、ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れることで、生徒が友達の考え方について理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりすることができるよう工夫していく。
（イ）T2 指導の工夫
T2 が別視点の意見を提示したり、机間指導をしたりすることで、生徒の多様な意見を拾い、多面的・多角的な思考を促していく。

6　本時の展開

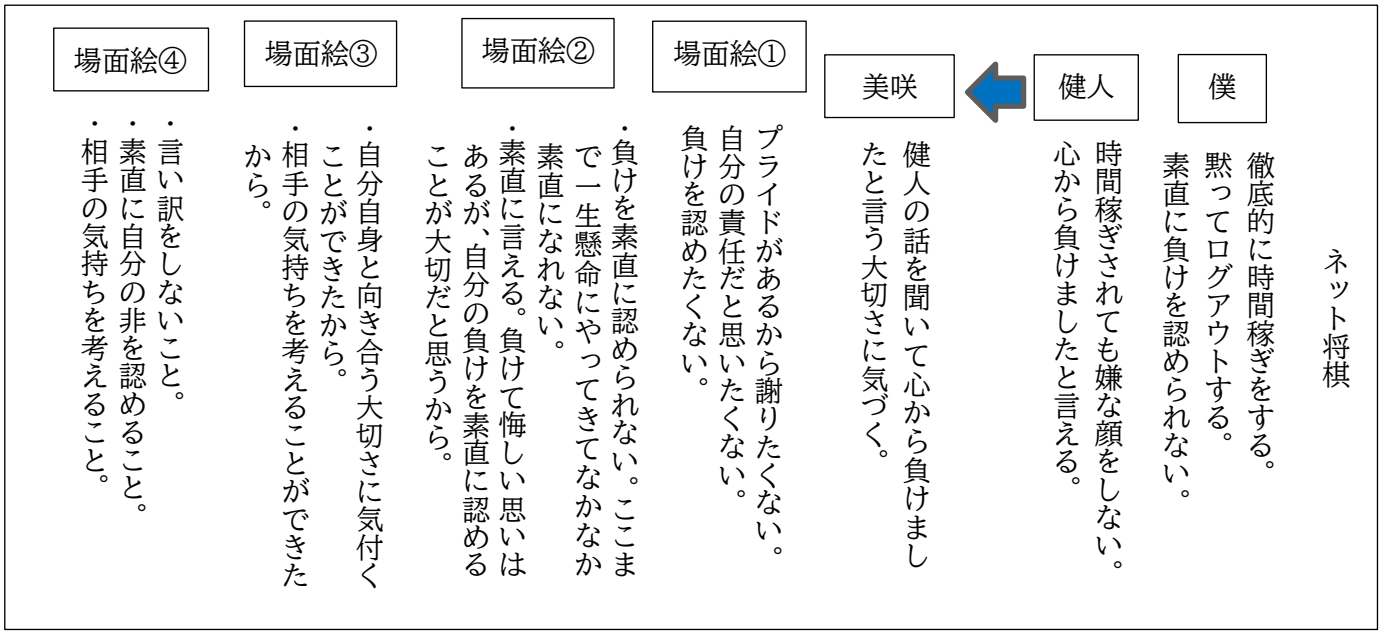
	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1悔しいと思った経験について思い出す。 ○最初の運動会の大縄練習の時、どう思いましたか？	・悔しい。 ・全然ダメだ。 ・回数が低すぎてひどい。 ・なかなか勝てない。	◇簡潔に時間をかけず、数名の生徒へ問いかけ、場の雰囲気をつくる。
展開	2教師による範読等を行い、登場人物の関係性等をまとめた後、発問について考え、話し合う。		◇教材のあらすじを振り返りながら、登場人物の状況・心情等を整理する。また、登場人物の整理を終えた後、誰の生き方に一番共感できたかを生徒に聞く。
	○（それは、そうだ。そんな気分の悪いこと、言えるか。）と「僕」が思ったのはなぜだろうか。	・プライドがあるから謝りたくない。 ・自分の責任だと思いたくない。 ・負けを認めたくない。	◇話し合い活動を中心とする。 ※「なぜそう考えたかのか」「プライドってどういうこと」「もう少し詳しく教えて」など、問い返す。
	◎健人のツッコミに笑えなかった「僕」は、どんなことを考えたのだろう。	・自分と向き合える健人に対して悔しいという思い。 ・自分が素直に負けを認められなくて悔しい。 ・恥ずかしいと思ったから。 ・自分がかっこ悪いと思ったから。 ・今まで自分が言い訳をしていたことに対する恥ずかしさ。同じだと思っていた美咲が変わったことに対する焦り。	◇「□□さんの考えについてどう思う」など、話し合いを促す。
	・補助発問 なぜ健人は、心から『負けました。』と言うことができたのだろう。	・自分自身と向き合う大切さに気付くことができたから。 ・後悔をしないために、悔しくても負けましたということの大切さに気付いたから。 ・相手の気持ちを考えることができているから。	
	○僕が気付いたより良い生き方とは何だろう？	・言い訳をしないこと。 ・素直に自分の非を認めること。 ・相手の気持ちを考えること。	
終末	3自分自身について振り返り、本時のまとめをする。 ○本時を振り返って、気付いたことや感じたことを書きましょう。	・負けたら素直に負けを認めて、相手に敬意を示すことが大切だと思った。 ・自分のためにも「負けました」と素直に言うことは大切だと思った。	◇書く時間を確保し、数名の生徒を指名して共有する。

7　評　価

○健人のツッコミに笑えなかった「僕」について考えることにより、誠実に生きるために大切なことについて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ、考えを広げようとしていたか。

○誠実な生き方について、自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画



道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第８学年３組２階　【国語Ｂ】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
教諭　加藤　友貴
東村山市立東村山第六中学校
教諭　手嶋　大貴

１　主題名　「公正な態度」
２　内容項目　C(11)公正、公平、社会正義
３　教材名・出典　「ヨシト」（日本文教出版　あすを生きる②）
４　ねらい　友人のヨシトに対して、偏った見方をしている「僕」が、直接ヨシトと関わり、本来のヨシトの良さに気づく場面を通して、偏見や表面上だけで判断するのではなく、正しい関わりを経て、公平に接し続けようとする実践意欲を育てる。
５　指導に当たって
（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について

・ねらいとする価値について
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第 3 章　道徳の内容　第 2 節　内容項目の指導の観点　公正、公平、社会正義の内容項目の概要には、「公平に接するためには、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることが大切である。好き嫌いは感情であるため、全くなくすことはできないが、とらわれないようにすることはできる。好き嫌いから他者に対して偏見をもたないように努めることはできるのである。自分と同様に他者も尊重し、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとすることが重要である」と記されている。
これを受けて、表面的な振る舞いや周囲の雰囲気に流されて人を決めつけるのではなく、多様な視点から相手を捉え直す大切さに気づかせたい。様々な人と積極的に関わり、互いの違いを認めながら肯定的な面を見出そうとする姿勢を育むことで、周囲に惑わされない主体的な人間関係の構築と、豊かな対人関係能力の育成を目指す。

・生徒の実態について
本学級の生徒は、男女の隔てなく仲が良く、協力して活動することができる。また、困っている友人を気遣い、自然と手を差し伸べられる優しさがある。一方で、親しさゆえ相手の不適切な言動を指摘したり、毅然と注意したりすることにはためらいがあり、人間関係や情に流されず公正に行動することに課題がみられる。そのため、周囲の評価や固定観念にとらわれず、多角的な視点から相手の魅力や良さを見出そうとする意欲を高めたい。様々な人と主体的に関わり、互いの違いを尊重しながら信頼関係を深めていこうとする実践的な態度を育てる。

・教材について
主人公アツシは、友人のヨシトに対し、偏った見方をしているクラスメイトに腹立たしさを感じながらも、周囲の目が気になり、行動できずにいた。同調圧力に流されていたアツシだったが、友人であるヨシトと話をする中で、ヨシトの良さを改めて感じ、自分の弱さを乗り越え、正義を貫いた。アツシの葛藤から、生徒が自分の問題として考えを深め、同調圧力に負けず、多様な視点から相手を捉えことの大切さに気づくことができる教材である。

・指導の工夫について
T2 が机間指導を行って生徒の多様な考えを把握し、議論を深める発言をしている生徒を意図的に指名して全体共有を図る。また、T1 と T2 が密に連携し、T1 の発問を必要に応じて噛み砕いて提示したり、生徒の思考を揺さぶる追加の問いかけを行ったりすることで、中心発問に対する学びをさらに深めさせる。さらに、教材の展開や生徒の心情の変化、思考の深まりが一目で理解できるよう、分かりやすく整理された板書構成を工夫する。

6　本時の展開

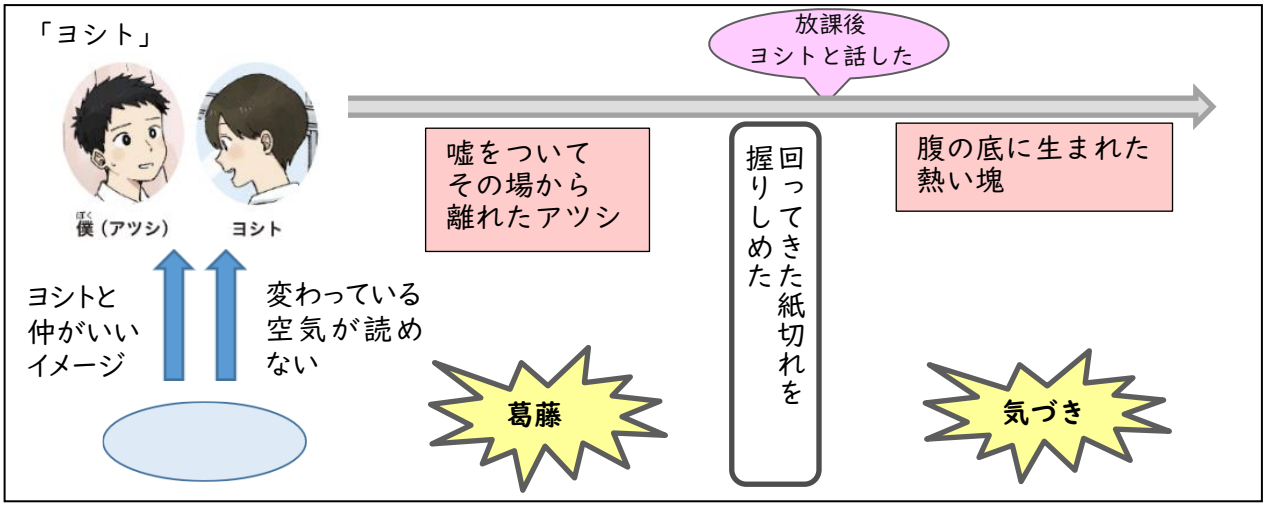
	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	１教材に対して興味・関心をもつ。 ○発問 無意識に思い込んでいることについて質問をする。 例：医者は男性？	・男性だと思い込んでいた	◇簡潔に時間をかけず、数名の生徒へ問いかけ、場の雰囲気をつくる。
展開	２教師による範読等を行い、登場人物の関係性等をまとめた後、発問について考え、話し合う。 発問 ○「ヨシトの声かけに対して、うそをついてその場からはなれた。」どんな気持ち？ ※個人思考→ペア→全体共有 中心発問 ◎「僕は、腹の底に何か熱い塊が生まれたことを感じた。」アツシは何を考えたのだろう。 ※４人グループ 補助発問 ○「熱い塊を感じたことある？」「改めて熱い塊とは何かを考えよう」 ※　個人思考→4 人グループ→全体共有 補助発問 ○「なぜ気づきが生まれたのか？」	・周りの目が気になる ・空気が読めないと思われたくない ・もしかしたら自分も言われるのでは･･･？ ・主人公の葛藤に気づく ・女子２人への怒り ・自分への怒り ・多数派に流されそうになった自分への怒り ・ヨシトの良さを見失いかけた自分への怒り ・ヨシトを守っていくという決意 ・表面的にしかみていない周りへの怒り ・ヨシトと放課後に話をして本当のヨシトをわかっていなかったことに気づいた。（面倒を見ないといけないと思っていたが、自分よりもしっかりしていた） ・ヨシトと自分の違いに気づいたから。（ヨシトは家族や自転車をずっと大事に使っている）	◇教材のあらすじを振り返りながら、登場人物の状況・心情等を整理する。 ◇話し合い活動を中心とする。 ※Ｔ２で「なぜそう考えたかの」「○○ってどういうこと」「もう少し詳しく教えて」など、問い返す。 ※「□□さんの考えについてどう思う」など、話し合いを促す。 ※○○というキーワードが出たら、その真意を問い返す。 ※怒りというけど、どういうもの？誰に対してのこと？ ※熱い塊がよほどのことであることを生徒に伝える。 ※問い返しを行い、ヨシトに対してよく知らないまま偏見をもっている生徒にも焦点を当てる。
終末	３自分自身について振り返り、本時のまとめをする。 ○本時を振り返って、気づいたことや感じたことを書きましょう。 ※個人思考→全体共有	・予想される反応 ・偏った見方をしない ・コミュニケーションを積極的にとり、相手の良さを見つけること。	◇書く時間を確保し、数名の生徒を指名して共有する。

7　評　価

○正しい関わりを経て、公平に接し続けようとすることの大切さについて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ、考えを広げようとしていたか。

○周囲の雰囲気に流されて人を決めつけるのではなく、多様な視点から相手を捉え直す大切さについて、自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画



道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第８学年４組　２階【国語Ｂ’】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
教諭　　脇　千春

１　主題名　「思いやりと感謝のつながり」
２　内容項目　B(6)思いやり、感謝
３　教材名・出典　「夜のくだもの屋」（日本文教出版　あすを生きる②）
４　ねらい　　おばさんとおやじさんから自分に対する優しさを知る場面を通して、周囲の人々を支えている思いに気付き、相手を尊重しながら思いやりと感謝の心をもって接しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。
５　指導に当たって
（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について
・ねらいとする価値について
　中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２　内容項目の指導の観点　思いやり、感謝の内容項目の概要には、「思いやりの心は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。感謝の心は，主として他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方である。人間は，互いに助け合い，協力し合って生きている。その関係を根底で支えているのは，互いの感謝の心であり，そこには申し訳ないという気持ちも含まれている場合がある。」と記されている。自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにするとともに、思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。

・生徒の実態について
　本学級の生徒は、思いやりをもって行動している生徒は多い。自分のことだけではなく、相手のためを考えて動くことができている。しかし、思いやりを受け取ることが当たり前のように感じている生徒が多くいる。また、「ありがとう」と言葉で伝えるが感謝の気持ちがない生徒がいたり、感謝することに恥じらいを持っている生徒もいたりする。
　これらのことから、本授業を通して、思いやりに気づくこと、感謝を伝えることについて考えさせたい。中学生の時期は、多くの人々の善意に支えられていることに気づいたとしても、そのありがたさを素直に受け止められず、見過ごしてしまうことがある。そのため思春期特有の照れや恥じらいを乗り越え、自分を支えてくれている人々に対して素直に感謝の気持ちを伝えようとする実践意欲と態度を育てたい。

・教材について
　本教材は、思いやりのある行動をする側の気持ちと、思いやりのある行動に気づく側の気持ちを多角的に読み取ることができる教材である。合唱部の練習後、暗い夜道を一人下校する主人公の少女を心配し、少女が通り過ぎるまで店のあかりを消さないでくれたくだもの屋の温かな思いやりが感じられる教材である。くだもの屋のおばさんが歌う合唱曲を通して、店のあかりが自分のためであったことに少女は気づき、驚きとともに感謝の気持ちになる。くだもの屋と少女のほのぼのとした心の交流を通して、ねらいに迫りたい。

・指導の工夫について
　ワークシートに記入する時間は終末の 10 分のみにし、それ以外の 40 分は話し合いの時間として思いやりと感謝について考えを深めていく。また、登場人物の関係性をまとめていく際に、補助発問を随時行い、内容理解に努めるとともに、思いやりと感謝のつながりについて気づけるよう発問を行う。

6　本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1教材に対して興味・関心をもつ。 ○「誰かの言動で心が温かくなったと感じるようなことはありましたか。」	・優しい声かけをしてくれた。 ・落とし物を拾ってくれた。 ・励まし合うことができた。	◇簡潔に時間をかけず、数名の生徒へ問いかけ、場の雰囲気をつくる。 ◇運動会を話題に挙げ、みんなが良い雰囲気だった理由を考えさせる。
展開	2教師による範読等を行い、登場人物の関係性等をまとめた後、発問について考え、話し合う。 ○少女に関して 「暗い道を帰る時、私はどんな気持ちだったのだろう。」 「思わず歌を口ずさんでいる私はどんな気持ちだったのだろう。」	・ありがたい気持ち。 ・なんで明るいのだろう？という疑問。	◇語り合う時間を多く確保するために、範読はスムーズに行う。 ◇登場人物の関係性をまとめながら、それぞれの登場人物の言動に注目させられるような補助発問をしていく。
	○おやじさんに関して 「どうして電気をつけていてくれたのだろう。」 「なぜ、あなたのためだよと少女に伝えなかったのだろう。」	・心配。　・優しさ。 ・自己満足。　・不安。 ・人見知り。 ・言う必要ない。 ・見返りを求めていない。	
	○おばさんに関して 「なぜおばさんは『どういたしまして』と言ったのだろう。なぜ話が通じたのだろう。」	・おやじさんの優しさに気づいてお礼を言ってくれたと思ったから。 ・お礼を言ってくれたことの嬉しさ。	
	○父親に関して 「お父さんはなぜりんごでも買おうと言ったのだろう。」	・くだもの屋さんの思いやりに気づいたから。 ・感謝を伝えたかったから。	◇父親の言動と少女の言動との比較をしながら、感謝の伝え方を考える。
	◎「店のあかりがあんなにあたたかく見えたのは、当然だったと思ったのは、なぜだろう。」	・自分のために電気をつけていてくれたことを知ったから。 ・おやじさんやおばさんの<u>思いやりに気づいた</u>から。 ・こんなにも優しい人がいることに驚き感動したから。	◇おやじさんやおばさんからしてもらったことに注目させ、思いやりに気づかせる。また、思いやりは、相手の立場や状況によって伝わり方が異なることに気づかせる。
	・「思いやりに気づいて、少女はどうしたのだろう。」	・友だちへのみやげ話にした。 ・お見舞い用のりんごを買おうとした。 ・<u>頭を下げて感謝を伝えた</u>。	

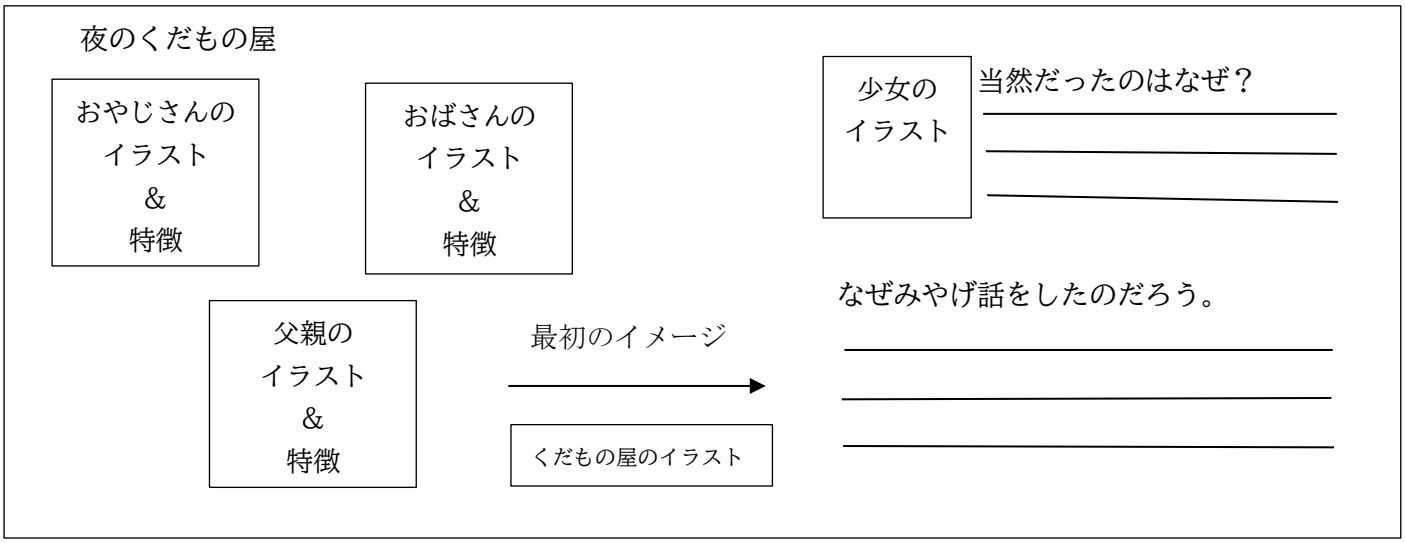
	・「もう一度、頭を下げたのはなぜだろう。」 ○「なぜみやげ話をしたのだろう。」	・りんごをさほど買えなかったことの申し訳なさ。 ・もう早く帰っているため、どうでもいいことになっていた店のあかりがずっとつけられていたことに気づかされた。 →申し訳なさ。 ありがたさ。 ・あたたかい気持ちになったから、友だちに伝えたくなった。 ・思いやりのかたちを誰かに伝えることも感謝を伝える一つの方法だと思ったから。 ・不思議に思っていたことの理由が分かったから。 ・感謝を伝えるためのりんごでもあったから。	◇思いやりのある行動をしてくれる人がいるからこそ、感謝があることを考えられるようにする。
終末	３自分自身について振り返り、本時のまとめをする。 ○本時を振り返って、気づいたことや感じたことを書きましょう。		◇書く時間を確保し、数名の生徒を指名して共有する。 （ワークシート）

7　評　価

○人を思いやることについて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと、考えを広げようとしていたか。

○思いやりと感謝のつながりについて、自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画



道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

９学年１組　２階 理科講義室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
主任教諭　石塚　康介

１　主題名　「かけがえのない生命の尊重」

２　内容項目　D(19)生命の尊さ

３　教材名・出典　「エリカ－奇跡のいのち－」（日本文教出版　あすを生きる③）

４　ねらい　　エリカとその命をつないだ人々の思いを通して、命の連続性について考え、かけがえのない自他の命を大切にしようとする道徳的心情を育てる。

５　指導に当たって

（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について

・ねらいとする価値について

中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 特別の教科 道徳編 第３章 道徳科の内容 第２節 内容項目の指導の観点　生命の尊重　の内容項目の概要には、「生命を尊ぶことは，かけがえのない生命をいとおしみ，自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れと言える。ここで言う生命は，連続性や有限性を有する生物的・身体的生命に限ることではなく，その関係性や精神性においての社会的・文化的生命，さらには人間の力を超えた畏敬されるべき生命として捉えている。そうした生命のもつ侵し難い尊さが認識されることにより，生命はかけがえのない大切なものであって，決して軽々しく扱われてはならないとする態度が育まれるのである。」と記されている。生まれてきたこと、先行きが不透明な現代でここまで力強く生きてきたことは奇跡的であり、誇れることである。また、一つの命が生まれ、育つためには、色々な人々の思いや支えがあり、それがつながることで実現する。生命を尊ぶとは、それらを受けとめ、生きていることの有り難さに深く思いを寄せることであることに気付かせたい。そして、自己を大切に思うことで、自己以外のあらゆる生命の尊さへの理解が深まるようにしていきたい。

・生徒の実態について

本学級の生徒は、他者の意見を聞き入れ、尊重できる生徒が多い。級友のことを思い、適切な助言をしたり注意したりして、他者に思いやりをもってかかわることもできる。その反面、自分の思いや考えをしっかりもっているものの、集団の中で自信をもって表現することに課題がある。昨今はSNSの発達により、自己表現の機会が減り、相手の痛み、人間らしさを感じにくくなっている。そのため、命は色々な人の想いや支え、温かさがあり、それがつながって存在していること、いくつもの試練や不安、葛藤を乗り越えた経験があって今の自分が存在していることに気付き、かけがえのない自他の命を大切にしようとする心情を高めていきたい。

・教材について

第二次世界大戦中、ナチスの強制収容所へ送られるすし詰めの列車の中で、生後わずか数ヶ月のエリカは、母親の手によって走行中の列車から草むらへと投げ出された。それは、死に向かう列車の中で我が子の「生」を願った親の必死の選択だった。通りがかった女性に助けられ命を拾ったエリカは、自分の本当の名前も誕生日も知らないまま大人になる。しかし、自分を生かすために命をかけた実の親と、危険を冒して育ててくれた親の愛を感じながら、今も与えられた命を大切に生きている。

エリカの家族は絶望の状態でありながらもエリカを思って声をかけ続けたこと、ほとんど助からないとわかっていても奇跡を信じて行動したことでエリカの命はつながったことを押さえたい。また、当時の時代背景から、ユダヤ人の子どもを育てることの危険とその時代を生き続けられた奇跡性に気付かせ、自分を生かすために命がけの選択をした実の親の深い愛と、危険を冒して自分を育てる決断をした育ての親の想いによって自分の命が存在していることを深く感じさせたい。さらに色々な人の愛や想い、支えを胸に、エリカ自身が不透明な時代を懸命に生き続けたことで今があることに、生徒が気付けるよう発問を工夫していく。

・指導の工夫について

生徒同士の対話や問い返しの中で考えを深めていきたいため、その時間の充分な確保と物語の内容、歴史的背景の理解、復習のために、授業開始までに生徒に、教科書の該当ページを読む時間を設ける。また、対話、発表の際には「話している人の目を見て、うなずきや相槌を心がけること」「発表者の方に体を向けること」を伝え、傾聴する雰囲気づくりをする。さらに、保健体育科の教員として命が生まれ、育つということの大変さ、奇跡性を改めて生徒に問いかけ、教科の内容を補い、深め、発展させることに留意する。「生命のつながり」を「色々な人々の思いや支え」と「自分自身が力強く生き続けてきたこと」の両方の視点から捉えられるよう発問し、生徒の自他の生命を尊重する心情を高めていきたい。

6　本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入5分	1歴史的背景の確認とエリカの家族の心境を想像する。		◇導入は短時間で終えられるようにする。
	○厳しい生活を余儀なくされ、さらには何も告げられずに貨車に乗せられるエリカの家族はどのような気持ちを抱いただろうか。	・不安 ・恐怖 ・絶望感 ・諦め	◇生徒が授業の約束を常に意識できるよう黒板に掲示する。 ◇歴史的背景を簡潔に確認し、渦中にいた家族の気持ちを想像しやすいように画像やイラストを活用する。
展開35分	※生徒には朝学習の時間に、事前に一度、教科書は読んで内容理解をしてもらう		
	2教材の途中から教師による範読を行い、物語に触れての最初の感想を生徒に問いかける。		
	3発問について考え、話し合う。 ○生に向けて苦渋の決断をしたとき、父と母はどんな気持ちだったか。	・申し訳ない ・もう会えないと思うと悲しい ・助かってほしい ・幸せに生きてほしい	◇両親の選択で生き続けられる可能性は極めて低く、奇跡的であることをおさえる。
	(補)汽車から赤ちゃんを放り投げたら助かるだろうか。	・ほとんど助からない、奇跡的な確率 →それでも究極の選択をしたのはなぜだろうか ・わずかな可能性にかけてでも助かってほしいと思うくらいエリカを愛していたから	◇日常では考えられない行動でしか我が子を助けられないと思うほど、「死」が家族の目の前まで迫っていたことを感じさせる。 ◇どんなに極限の状態でも、家族は何よりもエリカのことを考えていたことを感じさせる。
	○拾った人と育てた人、一つの命をつないだ人を支えたのはどのような思いだろうか。 (補) 不安や迷いはなかったのか	・ご両親の思いをつないでいきたい ・自分たちは危険になるけど、それでも育てていきたい ・1つの命だから育ててあげたい	◇時代背景の重みを常に問いながら、育てることは大変な思いであり、育つことは奇跡的なことであることに気付かせる。
	◎我が子を抱いたエリカさんはどのようなことを思ったか、赤ちゃんにどのような声かけをしたか。	・産まれてきてくれてありがとう ・大切に育てよう ・支えてくれた人に恥じない生き方をしよう	◇エリカと赤ちゃんが強く生きてきたことで今があることに注目させる。
	(補)妊娠・出産において特に大変な思いをしたのは誰だろうか。	・エリカ ・赤ちゃん ・支えた夫	◇保健体育の授業内容を振り返り、妊娠・出産が奇跡的で尊いものであることをともに考えながら、既習内容を補完していく。

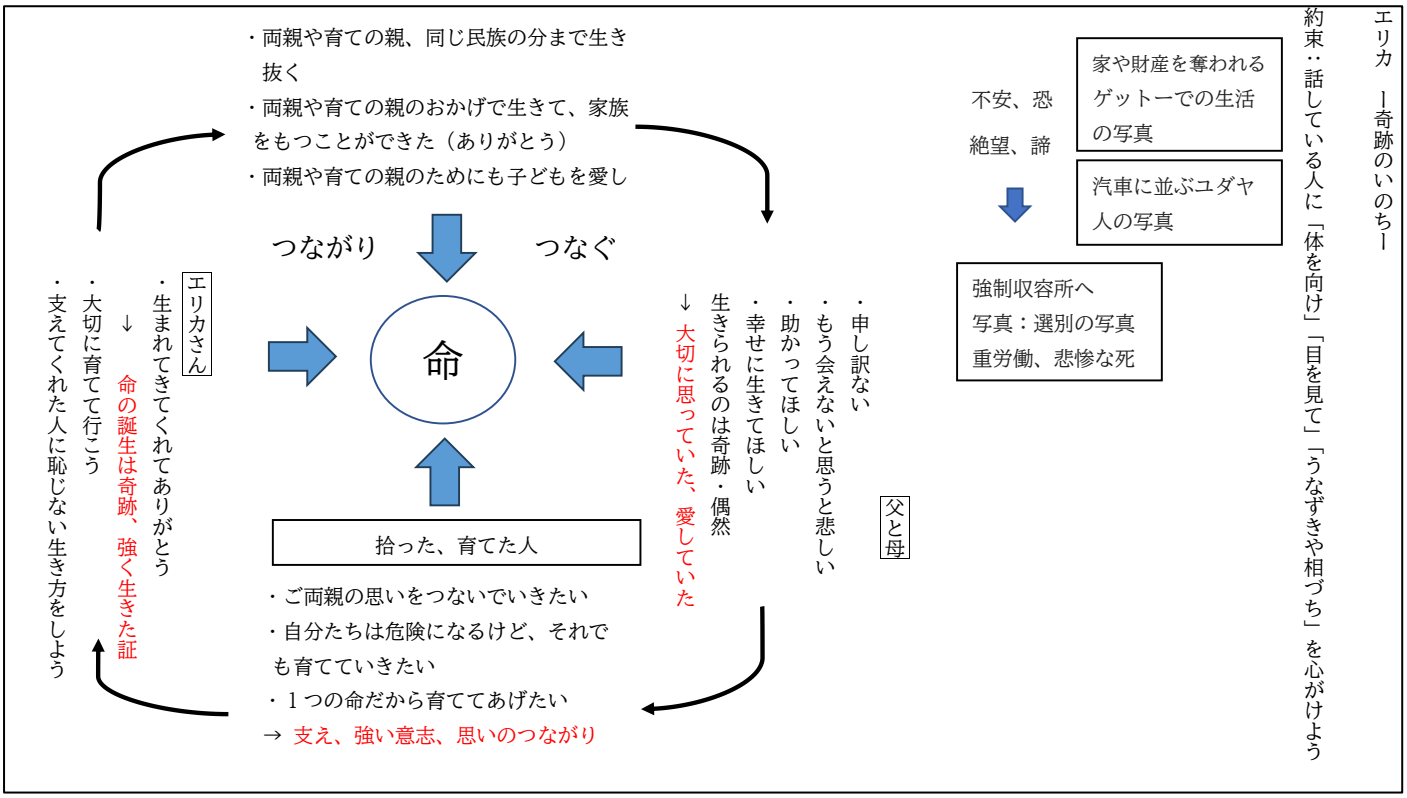
	(補)「わたしのかけがえのない命は、今も輝いている」と言っているが、エリカさんは命や生きることについてどのような思いを抱いているか。どのようなことに気付いたのか。	→妊娠・出産は具体的にどのようなことが大変だったか？ ・生命が誕生すること自体が奇跡的 ・長い期間、赤ちゃんはおなかの中で生き続けること ・つわり ・出産時の激しい痛み ・両親や育ての親、同じ民族の分まで生き抜く ・両親や育ての親のおかげで生きて、家族をもつことができた（ありがとう） ・両親や育ての親のためにも子どもを愛していこう、支えていこう	◇色々な人の思いがつながって命が誕生したことを常に問いながら、生命のつながりを実感させる。 ◇実の両親、育ての親の思いや意志がエリカの思いや行動の支えになっていることを実感させ、命の「つながり」を考えさせる。 ◇エリカが母親の立場になって「命をつなぐ」ことの重みをより理解できるようになったことを深く考えられるようにする。
終末 10分	４教員の経験や思いを生徒に伝えながら、本時の学習を振り返る。 〇本時の授業で気づいたことや考えたことをまとめよう。		◇本時の内容を振り返り、自己内対話を行う。また、感じたことは学級全体で共有する。

7　評　価

〇生命をつなぐことや自他の生命を大切に思うことについて、多面的・多角的に考えようとしている。（発言、話し合い）

〇命が生き続けることには理由があり、どの時代も奇跡的なことで、かけがえのないことであることに気付くとともに、今後の生活で命との向き合い方について、自分自身との関わりの中で深めようとしている。（ワークシート）

8　板書計画



道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第９学年２組　１階【共通Ａ】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
教諭　松本　楓佳

１　主題名　「周りへの感謝」
２　内容項目　B(6)思いやり、感謝
３　教材名・出典　「塩むすび」（日本文教出版　あすを生きる③）
４　ねらい　　面倒だと思っていた役割の中で主人公が感じた周囲の人々の思いやりや心配りを通して、他者の優しさに気付き感謝の心をもって関わろうとする道徳的心情を育てる。
５　指導に当たって
(1)　人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について
・ねらいとする価値について
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２節　内容項目の指導の観点　思いやり、感謝　の内容項目の概要には、「思いやりの心は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それはまた、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。したがって、思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。このように考えれば、思いやりの心は、単なるあわれみと混同されるべきものではないことがわかる。」と記されている。生きていく中で人と人との関わりにおける思いやりと感謝の心は必要不可欠である。そのため、私たちは他者との関係構築の中でそれらを意識することが多いと考えられる。しかし、その思いやりは、常に私たちにとって可視化できるものとは限らない。ときに見えないところで知らない誰かから受け取る思いやりもあるが、その思いやりに気付くことができるかどうかは受け手である私たちに委ねられている。周囲の思いやりに気付いたうえで感謝を伝える難しさがあるということを知り、他者と関わろうとする心情を育てていく。
・生徒の実態について
本学級の生徒は、自身の考えや意見をもちつつ他者の意見を否定することなく受け入れる素直さがある生徒が多く、コミュニケーションを丁寧に取ることができる。生徒同士で声を掛け合い、他者のために動くことの大切さについて日々学級指導を行っている。何か手伝ってもらったり、助けてもらったりしたことには気軽に感謝を伝えることはできる一方で、改めて感謝を伝えることに恥ずかしさを感じる時期でもあると考えられる。気恥ずかしさから感謝を伝えられないよりも、どんな場面でも他者を思いやり、感謝を伝えることが人間関係構築のうえで大切であると気付かせたい。
・教材について
三月十一日の東日本大震災のあと被災地で送る日々の生活の中で、主人公である「私」は生きていくうえで必要不可欠でありながら負担の多い食事係になった。ある日、食事係では残菜が目立つようになったことが課題にあがった。被災地ではなかなか食べることのできない温かな食事を提供することになり、塩むすびとお味噌汁をつくることにした。しかし、朝早くからつくらなければならないことに私は賛同しかねていた。眠い目をこすりながら手を真っ赤にして塩むすびを握っていると、被災者でありながら周囲の人のために一生懸命に動くおばさんたちを目の当たりにした。私が賛成できなかった役割の中で今まで知らなかった周囲の人の思いやりに触れて感謝の気持ちが溢れた。新たな取り組みから新しい気付きを得た私が感謝の気持ちをもつというねらいに迫りたい。
・指導の工夫について
「できたものを取りに行くだけで、片付けだけでも面倒くさいと思っていた。」という私が、塩むすびをつくることで「自分の知らなかった世界で、初めて考えさせられたことがある」と新たな見方ができるようになった経緯を考えさせる。板書ではその気持ちの移り変わりをキーワードにして書き記すことで可視化できるようにする。また、話し合う際は意見交換会ではなく他者の意見に抱いた疑問などを共有しながら話し合いを中心として思いやりと感謝がめぐり巡っていることに気付かせるようにワークは振り返りの際だけで活用し、話し合い、対話を中心に指導を行う。

6　本時の展開

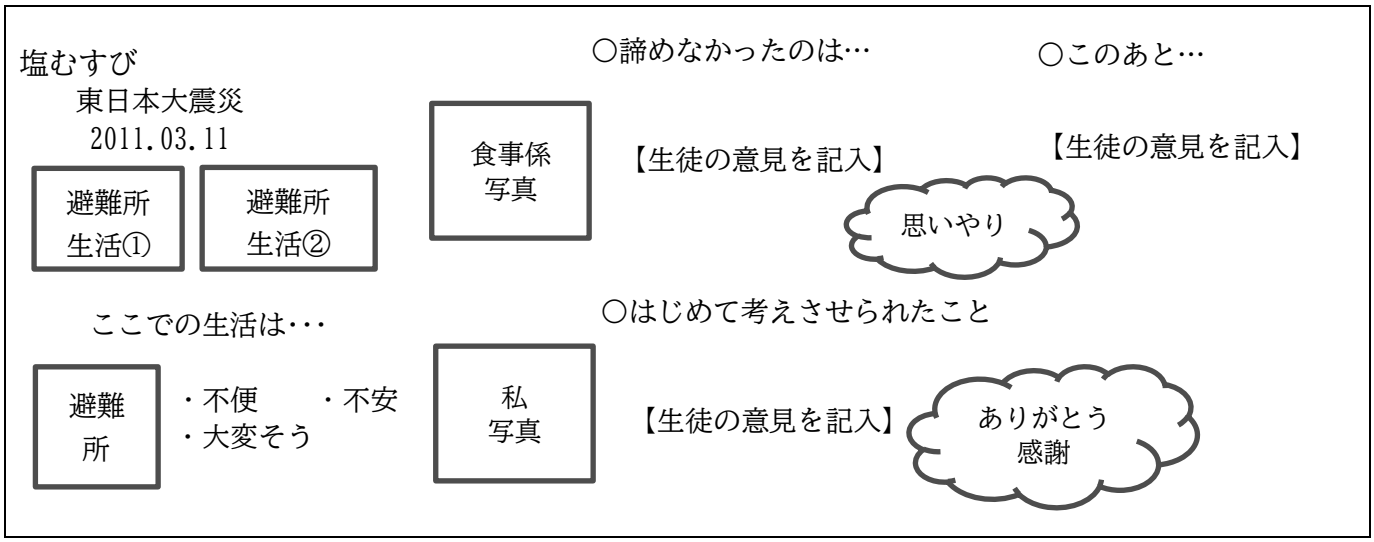
	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	１教材を自分事として捉える。 ○避難所生活はどんなものだろう。	・不便　　・不安 ・大変そう	◇導入は短時間で終える。 ◇数名の意見を聞く。 ◇トイレやお風呂などの生活状況を共有し考えさせる。
展開 35分	２教材の範読を聞き、発問について、話し合う。 ○残菜があっても諦めずに食事係のおばさんが次の案を出して動いたのはなぜだろう。	・避難所生活でおばさんたちも周囲の人に支えられていたから。 ・受けた思いやりを返したかった。 ・みんな苦しいだろうから。 ・元気になってほしかったから。 ・食事係として何かしたかったから。 ・助け合って乗り越えなきゃと思ったから。 ⇒他者を思う気持ち・思いやり	◇東日本大震災を知らない世代の生徒に、避難所や災害の写真を使って、状況を想像しやすくさせる。
	問い返し ○食事係のおばさんたちは食事をとる余裕があったのか。	・被災者だから余裕はないと思う。	◇おばさんたちも被災者の１人であることに気付かせる。
	◎食事係を通して「はじめて考えさせられたことがある」とあるが、はじめて考えたことってなんだろう。	・優しさがあふれていること。 ・誰かのために動く人がいたんだ。 ・恩返しがしたいな。 ・頑張って良かった。 ・知らないことが多かったな。 ・喜んでもらえてうれしい。 ・ありがたいなあ。	◇気が進まなかった食事係を担う中で何を知り、どんなことを考えていたのか想像する。
	問い返し ○残菜が減ったときや一緒に塩むすびを握ったとき、避難所のみんなが食べてくれたのを見たとき何を考えただろう。	・感謝の気持ち ・私もみんなの力になりたい。 ・もっと頑張ろう。 ・周りの人に感謝したい。 ・見えない優しさに気付けるようになりたい。	◇多くの思いやりに気付いたことで感謝の念が湧いたことを押さえる。
	○このあとの避難所生活を私はどのように過ごしたいと思っているだろうか。		
終末	３自分自身について振り返り、本時のまとめをする。		◇書く時間を確保し、数名の生徒を指名して共有する。

7　評　価

○当初の考え方から塩むすびをつくる過程の中で、その大変さや、思いやりと感謝について、多面的・多角的な見方へと考えを広げようとしていたか。

○周囲の思いやりや優しさに気付き、感謝を伝えることの大切さについて自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画



道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第９学年３組　１階【英語Ｂ】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
教諭　玉木　里奈

１　主題名　「友達とは」
２　内容項目　B(8) 友情、信頼
３　教材名・出典　「違うんだよ、健司」（日本文教出版　あすを生きる③）
４　ねらい
　教材の中のおばあさんたちがお節介をやきながらも、嬉しそうに笑っている場面について、考えることを通して、友達として相手の成長と幸せを願い、互いに高めていこうとする実践意欲を育てる。
５　指導に当たって
(1)　人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について
・ねらいとする価値について
　中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２節　内容項目の指導の観点　友情、信頼　の内容項目の概要には、「真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。それは、相手の人間的な成長と幸せを願い、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係である。友達を「信頼」するとは、相手を疑う余地がなく、いざという時に頼ることができると信じて、全面的に依頼しようとする気持ちをもつことであり、その友達の人間性に賭けることである。相手の人柄に親しみを感じ、敬愛する気持ちをもち続けることである。分かち合い、高め合い、心からの友情や友情の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にする態度を育てることが大切である。」と記されている。友情とは単なる仲の良い友達同士の付き合いではなく、お互いの成長と幸福を願い、支え合う対等のきずなであるということを自覚させ、自分自身の友達関係について考えさせることで、友達を無批判に同調したり表面的に付き合ったりするのではなく、お互いに励まし合い、高め合う関係を築こうとする実践意欲と態度を育てたい。
・生徒の実態について
　本学級の生徒は信頼できる友達を求める気持ちが強まる一方で、自分が傷つくことや関係悪化を避けるあまり、相手の不正義を正さず黙認したり、表面的な関係にとどめようとしたりすることがある。そうした友達との葛藤を共に乗り越えてこそ、深い友情が育まれることに気づかせ、人間として互いの人格を尊重し、励まし合い、高め合い、協力し合える関係を築くことができるように指導したい。
・教材について
　本教材はうすうす間違いだと分かっていても友達に同調する主人公「僕」の姿や、忠告しても疎ましく思われる健司の姿、悩みごとを話すことができず友達を避けてしまう耕平の姿を通して友人関係の中で直面しやすい葛藤を描いた物語である。これらは日常においても起こり得る現実味のある場面であり、生徒自身も身近な課題として深く共感できる題材である。そのような状況の中、物語の中盤では、長年互いを支え合ってきたおばあさんたちの深い絆や温かい友情の姿を目の当たりにしたことをきっかけに、3 人は自らの友情のあり方について強く考えさせられていく。疎ましがられても友達のことが心配で行動を起こす健司の内面的なよさに気づき、ついには心の葛藤を打ち明けた耕平の姿、深い友情の意味を悟った主人公「僕」の姿から、信頼を基盤として成り立つ友情のきずながいかに強いものか、話し合い活動を通して考えさせる。
・指導の工夫について
　導入ではこれまでの自分の体験から友達との関わりについて振り返り、終末につなげる。展開では、おばあさんたちの「お節介」とその行動の裏にある思いについて班で話し合い、友人関係を築くうえで大切なことは何か考えることで、本教材がねらいとする価値について考えを深めていきたい。話し合いを活発にするためにワークシートの配布・記入は「本時のまとめ」のみとし、それまでは電子黒板や板書を見て発言させるようにする。終末の本時のまとめでは、教材の内容を自分ごととして捉えながら振り返り、これからの友人関係の築き方に希望をもって向き合えるよう指導していく。

6　本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 授業の主題について考える。 ○友達ってなんだろう。（どんな関係性の人？知り合いとの違いは？一度話したことがある人は友達？）	・いつも一緒に過ごしてる人。 ・いつでも話し合える関係。 ・知り合いよりも気軽に思ったことを話すことができる。	・普段の友達との関わりを振り返らせ、本時は「友情」について考えていくことを全体に共有する。
展開	2教材を読み、登場人物について整理した後、発問について考える。 ○あなたは僕と健司のどちらの考え方に共感しますか？また、それはなぜですか？	〈僕派〉 ・相手を傷つけたくないから。 ・お互いの関係性を悪くするようなことは避けたいから。 〈健司派〉 ・本当の友達であれば、嫌なことや違うと思ったことは直接ハッキリと言うべきだから。 ・相手のためを思って行動するべきだと思うから。	・僕と健司の友達付き合いに対する考え方の違いについて確認し、どちらの考え方により共感できるか問いかける。 ・近くの人と話し合わせ、それぞれの立場の意見を全体で共有する。
	○「いやぁ。お節介なばあさんたちなんだよ。」と健司のおばあさんは言っているが、これはお節介なのだろうか？	この行動について、おばあさんたちは「お節介」だと言いながらも、嬉しそうに笑っている。　↓ ・健司のおばあさんは恥ずかしくて「お節介なんだよ」と言ったのだと思う。 ・お節介ではなく相手を思いやる気持ちだと思う。	・近くの人と話し合い、おばあさんたちの行動の裏にある思いを想像させる。
	（補）健司のおばあさんの友達はなぜ料理を振る舞ったのだろうか？	・美味しいものを健司やその友達にも味わってほしかったから。 ・喜んでもらいたかったから。	
	◎おばあさんたちの様子を見た３人はどう思ったのだろう？	・隠し事をせずに本音を言い合える関係っていいなぁと思った。 ・お互い遠慮せずに、家族みたいに接することが大切だと思った。	・班の人と話し合わせ、意見を全体で共有する。 ・「みんな家族みたいなもんじゃ」「隠し事の一つもできん」というおばあさんたちの言葉を取り上げ、おばさんたちが友人関係の中で大切にしていることは何か問いかける。
	（補）健司が教えてくれた「大切なこと」って何だろう？	・友達として本当に必要なことは言ってあげること。 ・悩みごとを隠さずに打ち明けられる信頼関係。	
	○よりよい友人関係とは、どんな関係のことなのだろう。	・お互いに高め合うことができる関係。 ・相手のために間違っていることを言える関係。 ・相手を尊重しつつも、本音を言い合える関係性。	

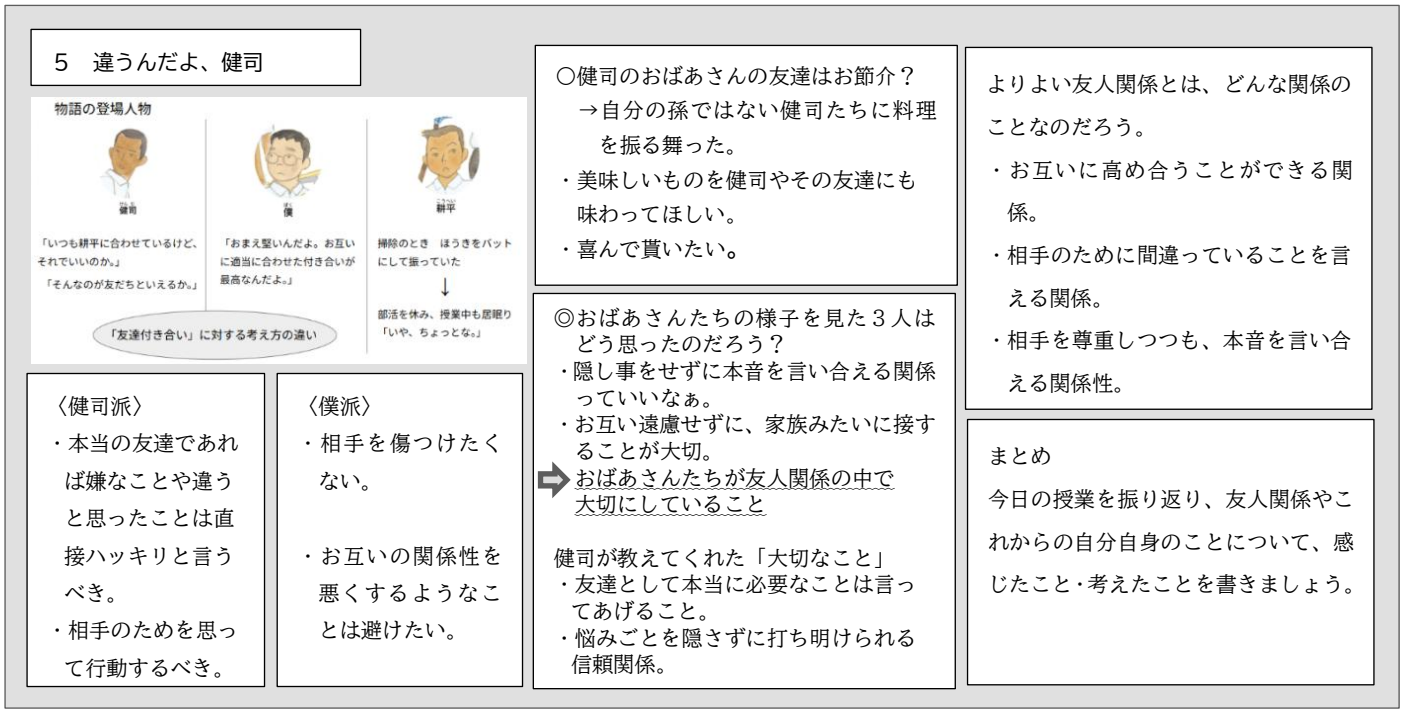
	（補）お互いを高め合うとはどういうこと？ （補）本音を言い合える関係性って何を言っても大丈夫？		・補助発問の内容を踏まえ、よりよい友人関係の築き方とは具体的にどんなものか班で考えさせ、全体に共有する。
終末	３教材の内容を自分ごととして捉え、これからの自分の生き方を考える。 ○今日の授業を振り返り、友人関係やこれからの自分自身のことについて、感じたこと・考えたことを書きましょう。	・相手の気持ちを尊重することばかり考えるのではなく、時には相手のことを考えて、厳しく接するなど、勇気をもって行動できる友達になりたい。 ・お互いを信頼し、高め合える関係性の友達でいたい。	・教師自身の体験を話すことで、生徒が授業を振り返り、生徒がこれからの友人関係の築き方に希望をもって向き合えるように促す。 ・数名の生徒に意見を聞き、全体に共有する。

7　評　価

○よりよい友人関係の築き方について、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ、考えを広げようとしていたか。

○よりよい友人関係の築き方について、自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画



道徳科学習指導案（赤塚第二中学校）

第９学年５組　１階【英語 A】教室
授業者　板橋区立赤塚第二中学校
教諭　中村　亜理沙

１　主題名　「自分から行動する」
２　内容項目　A(1)自主、自律、自由と責任
３　教材名・出典　「町内会デビュー」（日本文教出版　あすを生きる③）
４　ねらい
　嫌々ながら草刈りに参加した日、その翌日の明の心情変化を通して、人として成長し自信や誇りをもつことができ、自主的・自律的な生き方をしようとする実践意欲と態度を育てる。
５　指導に当たって
（１）人間としての生き方について考えを深める道徳科の指導の工夫について
・ねらいとする価値について
　中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　　第２節内容項目の指導の観点　１自主、自律、自由と責任の内容項目の概要には、「『自律の精神を重んじ』るとは、他からの制御や命令を待つことなく、自分の内に自ら規律を作り、それに従って行動しようとする気持ちを大切にすることである。『自主的に考え、判断』するとは、他人の保護や干渉にとらわれずに、善悪に関わる物事などについて幾つかの選択肢の中から自分で最終的に決めることである」。」と記されている。自身の言動について、「良いことをして満足した」にとどまらず、自分の考えで行動した結果を受け入れることが、人間的成長や周囲からの信頼に繋がると気づかせたい。また、自分で考え行動することが、責任を生み、そのように判断する経験を経て、自信や次の行動への意欲を育みたい。

・生徒の実態について
　日頃から自分で考えて行動することができる生徒が多い。特に、「誰かが大変なとき、困っているとき」は、「何かできないか。」「これやるよ。」という声かけや自発的な行動が目立つ。しかし、「日頃の係や委員会の仕事」に対しては、どうしても「やらされている感」が抜けない。面倒だと思いながら行っていることは表情からすぐに読み取れる。「委員会や係活動は自分で決めたものだから責任をもって行う」にとどめず、「仕事への働きかけに対して責任をもって行動することで、自分自身の行動に誇りをもつことができ、今度も目的をもって仕事へ取り組みたい。」という意欲を育てたい。
・教材について
　教材『町内会デビュー』は、受け身の参加から自主的な行動への意識の変化を通じ、自主・自律の価値を伝える読み物教材である。主人公の明は、母親に頼まれ仕方がなく地域の草刈りに参加する。しかし、お年寄りが大変そうに作業する姿に気づき、「よし。」と自ら決意して行動を起こす。誰かの指示ではなく、自分の意思で周囲のために動いた明は、大きな充実感を得て帰宅することになる内容である。指示待ち（他律）から自ら判断して動く（自律）姿勢への変化を描くことで、自分の意思と責任で行動することが人間的な成長や自信につながることを気付かせたい。
・指導の工夫について
　導入では生徒の実態を踏まえつつ、普段の学校生活を想像しやすいような発問をする。展開では明と自分の対話を想像させることで、物語の内容により親近感を沸かせるとともに、明が決意した「よし。」というセリフに込められている心情について考えさせ、カレーの味の変化に着目しながら問い返しを行うことで、そのシーンから遡りながら明の気持ちの変化をについて考えさせる。
　書く活動を振り返りの場面のみに限定することで、生徒が板書を見ながら話し合うことができる時間を多く確保していく。また、ペアでの対話や話し合いを取り入れることで、生徒が友達の考え方について理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりすることができるよう工夫していく。

6　本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1教材に対して興味・関心をもつ。 ○「ボランティアに参加したことはあるか。どのような気持ちで参加したか。」	・地域清掃をやったとき、みんなで町を綺麗にできて楽しい。	◇簡潔に時間をかけず、数名の生徒へ問いかけ、場の雰囲気をつくる。
展開	2 教師による範読等を行い、登場人物の状況や心情をまとめながら発問する。 □前日草刈りを頼まれる場面 □当日の朝の場面 □草刈り開始直後の場面 □褒められた場面 □「よし。」と決意した場面 □帰宅してカレーが甘く感じた場面 □翌朝の場面 ○「『よし。』となり、明はどのような行動をとったでしょうか。そのときどのような気持ちだったでしょうか。」 ◎「なぜカレーが甘く感じたのでしょうか。」 ☆補助発問「草刈りだったからカレーの味が変わってみえたのか。他のボランティアだったらどうか。何をするかによって変わるものなのか。」 ○「なぜ明は、大股で歩こうと思ったのでしょうか。」	・いやだな、面倒だ。 ・気が乗らない。 ・やっぱり楽しくない。 ・褒められてうれしい。 ・自分からいろいろ集めたりして行動した。 ・やる気が感じられる。 ・楽しくなった。 ・町のためにがんばろう。 ・明の考えが大人になったから。 ・頑張って草刈りしたから。 ・最初は嫌だったけど、一生懸命やると楽しくなったから。 ・他のボランティアだったとしても甘く感じる。 ・草刈りだったから甘く感じた。 ・大人ぶりたかった。 ・格好良く見せたかった。	◇教師が範読する。 ◇教材のあらすじを振り返りながら、登場人物の状況・心情等を整理する。 ◇場面（□）ごとのイラストを黒板に貼る。 ◇話し合い活動を中心とする。 ※「大人」というキーワードが出たら、その真意を問い返す。 例：大人になるとは。／どういうことで大人になったと感じるのか。
終末	3自分自身について振り返り、本時のまとめをする。 ○「授業の感想や大切だと思ったことなどをワークに書きましょう。」	・最初はやりたくないことでもやってみたら意外とうまくいく。たくさんボランティアに参加したい。 ・自分から人のことを思って行動し、助け合う大切さを学んだ。 ・褒められたことをきっかけに自ら行動できた明がすごいと思った。	◇書く時間を確保し、数名の生徒を指名して共有する。 ◇生徒の意見を含めて、作品全体を振り返る。自分自身について振り返り、本時のまとめをする。

7　評　価

○自分から進んで行動することで、その行動の幅が広がるということについて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ、考えを広げようとしていたか。

○自主的に行動することについて、自分自身との関わりの中で考えを深めようとしていたか。

8 板書計画

